



ミャンマーで起きていることに関する *Religions for Peace* 国際委員会
声明文

Religions for Peace 国際委員会は、ミャンマーの人々との連帯を表明します。半世紀にわたり諸宗教が集う組織として、私たちはこの国の癒しのために共に祈りを捧げ、そして、人々の民主的な願いを破壊するいかなる試みも非難します。

Religions for Peace 国際委員会は軍の指導者に、政治的理由で拘束されている人々の即時解放、文民統治の回復、ミャンマーにおける平和と和解の努力の継続を求めます。

仏教、キリスト教、ヒンズー教、イスラームの宗教コミュニティからなる *Religions for Peace* ミャンマー委員会のリーダーたちは、平和と和解のための数多くの共通行動を通して、諸宗教による協働という精神を推進してきました。*Religions for Peace* 国際委員会の共同会長で、*Religions for Peace* ミャンマー委員会の指導者でもあるチャールズ・ボーク枢機卿は1月25日に声明文を発表し、国家の課題を軍事によって解決することを拒否し、すべての権力をもつ人々が、民主主義、平和、和解への道から逸脱しないよう訴えました。

この声明文にある原則は、*Religions for Peace* による和解と平和のためのアドバイザー・フォーラムの根底にある価値と共通のもので、アドバイザー・フォーラムは、人間の尊厳、人権、国際法の尊重に基づく包摂的な対話の事例ともなっています。

それゆえ *Religions for Peace* は、現在国の責務を担う人々に対し、アドバイザー・フォーラムのプロセスへの支援と尊重を継続し、諸宗教によるケア、難民や周縁に追いやられた人々へのサポートが維持されるよう求めます。文民統治の回復とともに、これらは慈悲の実践であり、すでに長期にわたって勇敢に苦しんできた人たちの国において、平和と和解を実現させるための責務でもあります。

未来はミャンマーの人々のものです。彼らは自分たちの指導者を選ぶことを通じて、彼らの声が聞き届けられてきました。ミャンマーにおける宗教指導者の協働的な働きは、分かち合う幸福を実践し続けるのであれば、宗教者の勇気と信念の証だけでなく、統治する人々の真の善意を証する働きともなるでしょう。